

蓬萊山人作
居
後
收

特別
~13
3633
25



天明三年

持

門へ13
號3633
卷25

天明三年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

序

北山

曼魚

曼魚

男子傾城より先く部くす七の比
し。終る海の書母のよまよ。いふいふ
ら拾らるるほどまへる事には
つゆをいふの月ももさるるさるる
鰐卵知くく。細腰よ仕人さるる

ら歌し。體ハ云の内注はまじしゆ
夏秋葉ト。葉そこら團の本立目と
おどけの。射そこ法答のち家と
心得強の昔の名系と思ひきり
り。こら。法中切以費。救ハ生
玉ふ尔。子際如身也。六蔵の河一

志。只行先。月めおおられた。
昂が大。河川尔。三年。吉
新。百。年。二。年。四。季
乃。も。あ。い。む。の。お。め。る。廿。の。履
地。と。思。ひ。丹。取。は。紅。の。糧。也。樓。情
と。む。飛。く。妓。奴。尔。後。知。る。せ。り。れ。い。

西澤の山も止まりて今いさよ〜

丸め〜粧〜。きみ〜。此中にある。

いふも我よ旅〜。浮め雲の〜

物〜。清〜ぬ〜

色〜。心〜。松〜

取〜。ち〜。あ〜

あ〜。あ〜。あ〜

あ〜。あ〜。あ〜

あ〜。あ〜。あ〜

あ〜。あ〜。あ〜

あ〜。あ〜。あ〜

あ〜

かおたるごの尻ぢぬぐりこせりて
さあねづ又 紙舞のまらさ

玉明平一三

卯一子らぬ春

蓬山山人 帰楊連



君人頼房お蹟徳全



後^{こき}の^ふ實^みのぬ^ぬを^をけ^けり^りある^あを^をい^いう
な^なま^まの^の幸^{さち}を^をぬ^ぬく^くし^しと^とけ^けみ^みを^をり^りて
我^{われ}を^を悔^くむ^むと^とい^いふ^ふの^のま^まに^に人^{ひと}を^をみ^みる^る
世^よの中^{なか}も^も角^{かく}の^のな^なを^をい^いひ^ひ西^{にし}に^にせ^せら^らす^す
付^つ合^あひ^ひの^の成^{なり}と^とい^いふ^ふ後^{のち}に^に又^{また}の^のま^まを^をみ^みる^る
後^{のち}に^に又^{また}の^のま^まを^をみ^みる^ると^とい^いふ^ふは^は世^よを^をみ^みる^る

まらひひやく板のぬえのうまをうくと
いぬかうあとの流く是はま世俗のらぬ
遠く。太平の代の者む下まは傾城と
いふ身をもの魂をそか。父母は苦勞
をかろ身も又医を病くあめすくはし。
多くは其の中。世を知らざるなり。
又まぬでもなく。志のしるあしと。まわ

めんのみ乃ゆうせいよむく。目と道り
ゆるまきいふある老どとそんをうんす系。
山乃ま乃先生四方の赤良藤十巻江
雲楽埒橋は悪人會。今日めづりく。
はなぐ国はん定乃地肉は臍天十日の大角力
かひれ礼いふこの活きがん。是は小はを氣
乃後身もよ親ハ格さ。小角力家候

まはれ内務省の書もせうふとある内務省の
著者天の御心打出の著者もみよと
出づる佛蘭西の館の著者もみよと
うも著者やとけふふかふ人乃作者仲
男ハッ西よまどい何中相後ハ著者
赤良 角力と押りろびらひの著者乃踏合
ゆらびいさき事ハ移りんご虫歯の著者ハ

よのちとこらひ 菱 びとをいひ付く
西でともいふ案の下の著者乃と出づるや
移り海様子 人乃西よい版をさすの
と著者移り先生とほむくハ出づれめん
なるかどかど結のこの著者ハ移りめん
と出づるの 燕 とうとといくハ仲丁の
雲の著者ハ娘ハあきまよく出づる紙よ



雲いしは澄は好ししよふかの地方はぬれ橋ののぬれ人もかり
 押しひあればぬえんこのさらし仲しひくも鹿を
 原うらひ此終末をら老きし之の形も亦た土橋を
 定むべしとは相撲ののの事未ハテ原があるをぬれ橋子
まを石橋のさらまきとす
 いまま深がなれば乳子も顔濁都やなんとう肉り
 形のままあられば里乃今まとあらぬ前の
 がまさらずとらうのままは海まらうならい女

とをららよあらば赤良がくから糸きひ福ハ+
 雲 ぬれ橋のやらもあるなぬれ橋りらが又せん
 との竹登の深のはならずいあらよのにし者ハ大
 けんきの物さらぬせぬれ橋よしし何でりかても
 きこじをならず出さらぬれ橋ハいいよ
とさらうとんきあらぬれ橋よ
 仲下の松登を入娘きよあらぬれ橋りらがぬれ橋
 さらぬれ橋十さん角力が打出すとか出くまんと

孫中むねなかつあまあまたたりりた。見みををあありり一いかかしし付つくくああくく サア さあこ
とああののどどちちままううやや一い収しゆ見みあありりハハららんんひひららんんが
明あくくいいららうう カ あいいきき イア い 裏のちんハハ サ えん ま
葉葉のの カ 豊 と ま の こ と お 葉 と ま の ま の ま
そそんそどどいい 葉 と 葉 の 爪 の 新 着 の こ う ぶ と あ り ハ
ららんん ま あ ん ま い ま よ ハ い の ん で ま ま い お 葉 ら ん ハ あ い ど
乃乃 ち あ り あ い の び 乃 や す を ざ と 見 ま ん お き

事事 さ さ く わ ら う し と と 戦 場 よ お お く ま 一 に と。
ああ り あ い の 麻 が り サ 常 や 海 い 吸 め の が 出 た ま
らら せ と い ひ く 吸 め の か こ と る 是 が 海 事 娘 行
りり は 攻 撃 を ん お あ え ん ハ ら の 久 多 ん 十 三 人 が 獲
さんさん が の 事 終 あ の 所 ハ 今 日 ハ 正 多 ん 十 三 日 と せ ふ
 正 多 ん 十 三 日 と せ ふ の マ 傷 ハ 引 つ れ 後 お あ ハ
いい 世 市 の 地 所 よ た る し そ う も ぎ れ も 秘 を れ は れ よ

みしきやを仕り有るは^{はらふ} 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿
かきう事。 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
まらこも有るう 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿
^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
まげい 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿
^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
あはれ ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三

まじら ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿
あはれ ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
か ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
あはれ ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三
廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿 ^{あはれ} 廿
あはれ ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三 ^{あはれ} 三

めん夢及び一とうふきねあへ。母は源河られば。
 志きよおめつうふか。さんそくいのあかり。浮橋
 さんあき。さんあき。おあき。さんあき。
 [後]大科やの久うさんあき。るうさんあきの
 るうより。さんあき。賞とさきねれば。
 後橋さんあきのちがづきあき。あき。
 [後]さんあき。あき。あき。あき。あき。

後橋さんあき。あき。あき。
 久うさんあきの物とあき。あき。
 乃あき。あき。あき。あき。
 [後]あき。あき。あき。あき。
 さんあき。あき。あき。あき。
 赤橋さんあき。あき。あき。
 [赤]あき。あき。あき。あき。
 [白]あき。あき。あき。あき。
 [赤]あき。あき。あき。あき。
 [白]あき。あき。あき。あき。

そんまゝんあふれんは海まをうらやうあそび
しぬわ川向ひ乃ま愛。中くあもあめりて
あまうふ合点すれば。薄んらと龍使乃びく。先の
すきふゆでともらひらねる世乃中。アつく
ふく^{ふく}海まをうらやうあそび。ハあやまきまのハあやまきまのあやうい
かり^{かり}今くハ角力のあうらうくこくま
ま^ま今くハ角力のあうらうくこくま
う。うぐく言海まをうらやうあそび。

たをけく。土俵乃海まをく。のらま
あをうらやうあそび。あまうふ合点すれば。薄んらと龍使乃びく。先の
すきふゆでともらひらねる世乃中。アつく
ふく^{ふく}海まをうらやうあそび。ハあやまきまのハあやまきまのあやうい
かり^{かり}今くハ角力のあうらうくこくま
ま^ま今くハ角力のあうらうくこくま
う。うぐく言海まをうらやうあそび。

世に **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
自發とぬき申す。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
まづ二三入らむ。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
えんちの **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
其の **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
三法を出し。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
小冊子。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
なる **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう

さき **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
かひく **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
乃ち **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
おめを **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
輝く **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
さき **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう
所 **家** けしあはしう。乃ち **家** けしあはしうとてしやう。乃ち **家** けしあはしう

あつちと押つちま。さうしくく後よりせんせん
とまふんかうぬう困ふを川やうをまをりあやうとちりままぬ
がらちちり共火をちの火を火へいりまいたがし

世書三

つゆとあらしう。いふやぬひぬれとを。ま
あつちとめいしくと申で。あてこ盆と申く
まのく。いといふまきせりあをたりく承く生しきを
あまびりもまのぞくといふく。い
まをいひまきせりあをいりり

世書一 屏風の申

世書一 屏風の申
幕はりふまき物云のまの者く床へ入るもぬびふ
たをこそ春くか合りし亦一冊とい紙をかたがう屏風を
あまき **二** 世書二 せんきのみハ。うりきあみ。う
うんとて申。あが。たをまうやせん。今うか
すむのまらぬ移の。水切きの林をくや。あ
の。又り。う。が。是。や。う。よ。思。せ。る。ん。ん。き。い。が
よのぬきれ移るも。あ。せ。ん。あ。め。ん **三** 世書三
るゆさふ。か。う。る。れ。あ。の。の。と。室。に。ま。さ。い。ん。

考あり。いもの事をつらう。はるうと
る。おののちけくやま。きののめい
もく。い。なんとなうと。あう。六。この
やう。あう。ごう。な。せ。す。ご。け。な。を。お。し
と。い。や。す。な。ぜ。とい。あ。せ。下。お。め。が。内。の。斗
居。く。風。息。波。の。な。く。あ。う。と。世。話。や。せ。じ。乃
切。ち。り。で。し。す。や。う。み。ん。あ。う。バ。承。知。し。ま。や

き。ぬ。毎。日。乃。や。う。ま。世。尊。重。う。ん。の。内。や。た。あ。ん
乃。あ。よ。ま。ん。ん。い。家。の。の。と。あ。ん。ま。事。が。あ。ん
ち。よ。あ。り。ご。う。く。家。ま。ぐ。き。ぬ。り。ん。と。
志。の。せ。ん。そ。ん。ま。る。の。を。な。は。ぬ。ま。ほ。く。あ。い。の
か。う。ご。の。と。い。ら。ち。や。ア。お。あ。す。す。ま。だ。ら。し。と。し。と
す。後。後。い。月。を。承。い。月。の。内。あ。ア。お。あ。り。乃
ん。と。き。ぬ。お。せ。う。国。そ。ん。を。お。う。い。年。は。は。か

棋とてさるやうなやろとぞとぞしくはまゐるや
まゐるれぬ。とらふいふとまゐる二朝今市のをまゐ
あゝとまゐるはあぢう魚分のをまゐることやまゐるはあす
招きいませういんといふまゐるはあゝとまゐるはあす
かりし不鬼千がまけ合すのらまゐるはあゝとまゐるはあす
かれははまゐるはあゝとまゐるはあゝとまゐるはあす
[六] かなるやうにさるはあゝとまゐるはあす
とまゐるはあゝとまゐるはあす
目とせしはあゝとまゐるはあす
がかなるはあゝとまゐるはあす [六] かなる

すゝとらふはあゝとまゐるはあす
しやいんはあゝとまゐるはあす [六] かなる
でまゐるはあゝとまゐるはあす [六] かなる
何うにまゐるはあゝとまゐるはあす [六] かなる
者を大勢とらふはあゝとまゐるはあす
いゝまゐるはあゝとまゐるはあす
かなるはあゝとまゐるはあす

交のいふぬわれのやうに作末の夕あけのうれ
 やうにうれなせしつすいふぬれ^{やうに}あけ
 いのちあけのうれ^{やうに}どちあけのうれ
 とちあけのうれなせしはまのうれ
 さでいふ合息がゆく福^の節をおろしといふ
 はあきぎんあき福ずあといふぬれ^{と夜を}首まき
 づゝ寒い

帰橋扇風乃中

扱てよの扱はよ扱橋のぬれ^の福^の節^のあき^のうれ
 よきよりのあき^の福^の節^のあき^のうれ
 扱てよの扱はよ扱橋のぬれ^の福^の節^のあき^のうれ
 いのちあけのうれ^の福^の節^のあき^のうれ
 今もあけのうれ^の福^の節^のあき^のうれ
 きつたうれ^の福^の節^のあき^のうれ
 ち岸やなんぞうれ^の福^の節^のあき^のうれ

ち〜福のせんくのめりまあつるきを志す
の付見さんや月の志あひがせんてあつる
くど福のせん事とどのやうくらの
かあのとまきのが福あひひつきあーや
福あまがくふを肉でも志願いさるの
け〜後どやああつるを志願いさる
ゆんよの福とくまうふよああがせん

がひがあまきすののあの中あ福あま
かく〜海と福とを志願いさるの
又あまのむとを志願いさるの
のそひて身てああ
と後の中がせんてあまにじて飛く
せんを月よあまあ志れ福あまあ
あまあ〜あまあ〜あまあ〜あまあ〜
い〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
く〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

去人の物持さ。目もさううあしをさうあに
今まぐよくもかきさし。さうの悪人乃
傍令らま。あを賞ふりくしや経入。け
あやあに江戸中よ。うどああありよお
ちか^ちとけし。ちありのうげ^りううあま。
形りのあきやハあらのういのみ。今をさあ
てさふあ^うは。款^{うき}とさうよあしとさうのぞ。

うぬがあし。あのみもさうさうとあ
うういを。まうああうんよあうんとうあ
去のぎのあでさあすのう。今うあうあ
さうが石矢でもあうとあう後。ふつ
かふあうあうあま。ああうんがういひも。
今このううとあうてかふ。け仲丁のさう
ぬきあ。あうすさうのあうとあ。あうい

すゝか押うかりく。客がせむぬしよとまら
まぐい。あゝとらるるが地をんら西らふが
からとらあくみ人ぞ後(神)よんらうま
よかたが付くと。いやうまのまゝのむく
火よ。こまなきまま。あゝとまらるるたは
ハ。角しく料よかたはけり料。角力そり料
あゝとら。かでもともやす法ハ有る。返るハ

とあゝとせむこよ。あれでとも相(と)まら
おんぐ。まんらとまらあゝあゝとまらふく
ぜんら入るす。まらとあゝ。らんたもあきて
サアボせんは。海川らいざあさ。今年で
三(三)のうし。はげと。神(大)ひやささうは。き(海)横
ねん。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。
あせとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。
とらあゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。
海横(大)目とら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。あゝとら。

きさ方

大ひやささうはき

あ

とら

志や新丁や新入りも。市利の
 救ふにや。利海に満ち儲溜たまり
 運業山人と候まの。くら表題を。
 君人頼源が談信をよと懸しと。
 其後魚小。是も代生の流千が。

筆が深の井が。園お採る亭
 志うらま。

卯うさぎ
 かくしん女春

志水裡町由

u 5460

30
20
11

57

100

71

